

未曾有の経済危機を克服する対策のとりまとめに向けて (参考資料)

2020年3月31日

竹森 俊平

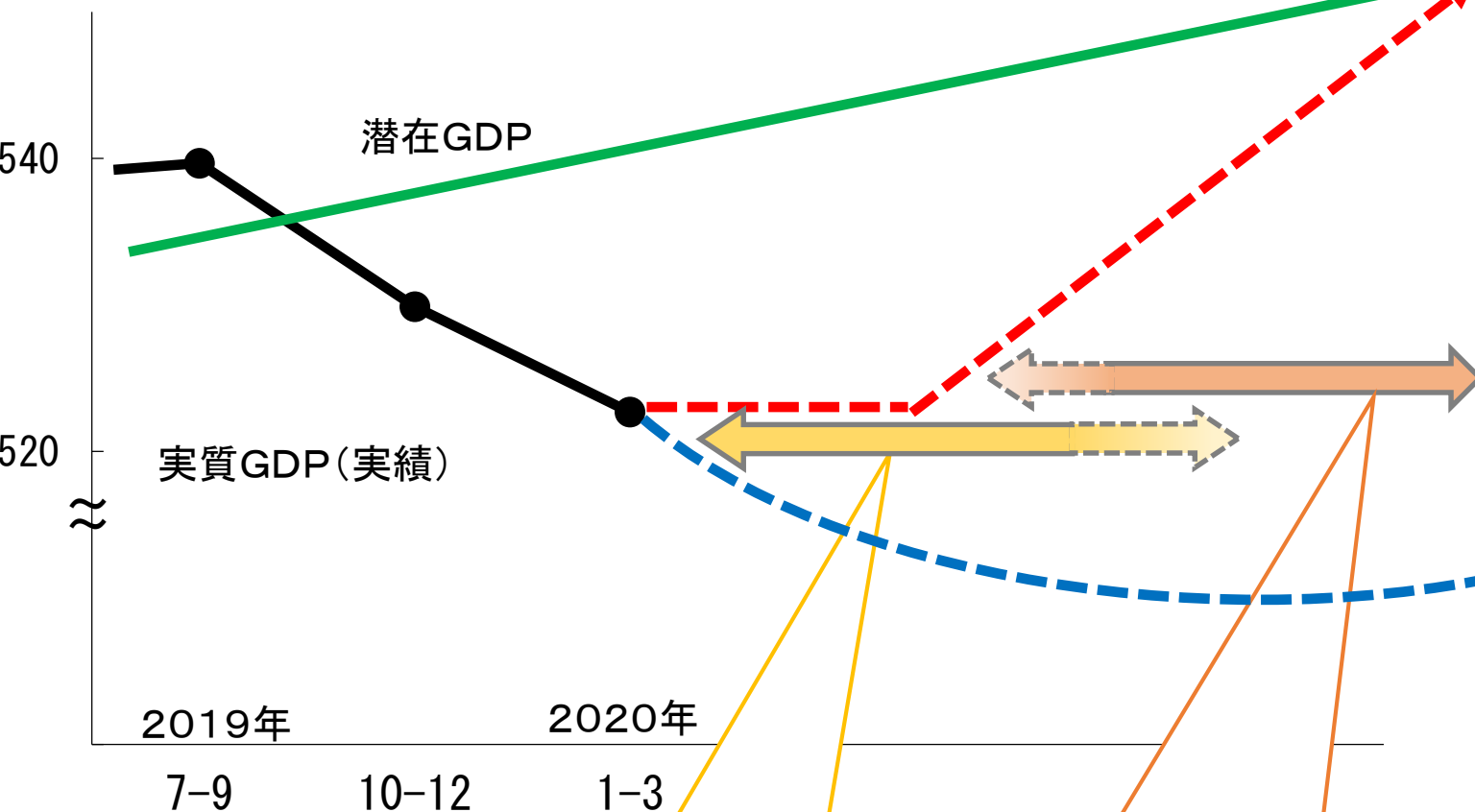
中西 宏明

新浪 剛史

柳川 範之

(兆円・年率換算)

実質GDPの推移



V字回復シナリオ

- 多様な働き方が進みテレワークも日常化
- リモートでの医療・教育・消費が一般化
- 生産性向上の基礎インフラがデジタル化
- サプライチェーンが重層化

停滞シナリオ

- 感染症の終息遅延
- 世界経済の回復が見通せない
- 金融資本市場にも影響が波及

緊急支援フェーズ

- 雇用維持: 雇用調整助成金、フリーランス支援
- 所得の下支え: 大胆な給付
- 困難な状況の下での生活の安心: 遠隔診療・服薬、遠隔教育、セーフティネットの強化等
- 事業継続支援: 中小企業への融資・給付・税の支払い猶予・減免等

V字回復フェーズ

- インセンティブによる消費喚起: 割引クーポン、マイナポイント等
- 未来を先取りする投資喚起: デジタル化・リモート化・グリーン化の加速
- 地域経済の再生: 観光・飲食・イベント振興、サプライチェーン再構築

新型感染症の克服に向けて

- 各国で行われている既存薬についての治験結果の国際的情報共有等を進めるとともに、ワクチンの開発に向け、日本企業のポテンシャルを引き出すよう促すとともに、国際協調的取組に日本としても最大限貢献すべき。
- 国内での治療薬・ワクチン開発とあわせて、国際協力の下でのワクチン開発等に拠出するほか、二国間での協力推進など、危機打開に向け国際的なリーダーシップを発揮すべき。

途上国へのワクチン配付の流れと期待される主な効果

研究と開発

ワクチンの配布

感染症対策の
両輪

CEPI(感染症流行対策イノベーション連合)
Coalition for Epidemic Preparedness Innovation

Gavi(Gaviワクチンアライアンス)
Global Alliance for Vaccines and Immunizations

新型コロナウイルスの流行を踏まえ、以下の8件のワクチン開発プロジェクトを支援

1. Inovio社(米国)
2. クイーンズランド大学(オーストラリア)
3. Moderna社(米国)、米国国立アレルギー感染症研究所(NIAID)
4. CureVac社(ドイツ)
5. Novavax社(米国)
6. オックスフォード大学(英国)
7. 香港大学(中国)
8. パスツール研究所(フランス)、テーミス社(オーストリア)、ピッツバーグ大学

以下の日本企業とも連携しつつ、世界の低所得73か国を対象に、累計で約7億人の子ども(全世界の約6割)に12種類のワクチンを投与

- ・A社(ワクチン債の起債)
- ・B社(乳幼児の指紋認証技術に関する技術協力)
- ・C社(投資)
- ・D社(運搬機械) 等

CEPI、Gaviへの拠出により期待される主な効果

- 途上国等を通じ、新型コロナウイルスが再度日本に侵入するリスクを低減し、国民の安心と安全を確保
- 日本経済や世界経済への更なる下押しを未然に防ぐ
- 対ウイルス技術(治療薬、ワクチン)の戦略的な重要性が高まる中で、国際的な協力構築に向けてリーダーシップを発揮